

川本北小学校 教科名 (算 数)

確かな学力を身につけ、生き生きと学ぶ児童の育成

1 ねらい

- 「指導方法を工夫、改善し、個に応じたきめ細かな指導を行えば、基礎基本の定着を図れるであろう。」という仮説に迫る手立てのひとつとして、具体物を用いたり、言葉・数・式・図を用いたりして考え、説明する算数的活動を積極的に取り入れ、思考力と表現力を高める指導を行った。

2 取組概要

①作業的・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動

- ★どの直方体や立方体が大きいのかを確かめる。《6年 体積》



直接比較



間接比較 (1 cm³の積み木を置く)



間接比較 (2 cm³の積み木を置く)

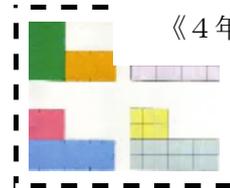
- ★ぼうとりじゃんけんゲームでとったぼうの数をわかりやすく並べて数える。《1年 20より大きい数》



5のかたまりとバラとバラ



- ★切り方や方眼をつけたヒントカードを作成し、個に応じたものを提示する。《4年 広さ》



《4年 広さ》

10のかたまり

②考えたことを表現したり説明したりする活動



言葉で表現《6年》



図や式を使って説明《4年》



図を使って説明《1年》



棒の数え方を図や言葉でノートに書く《1年》

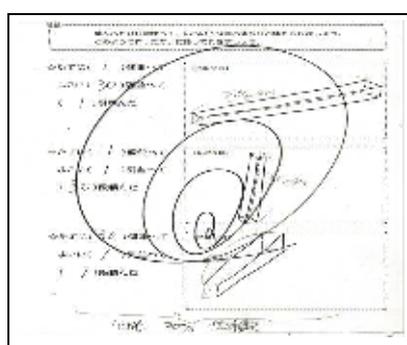
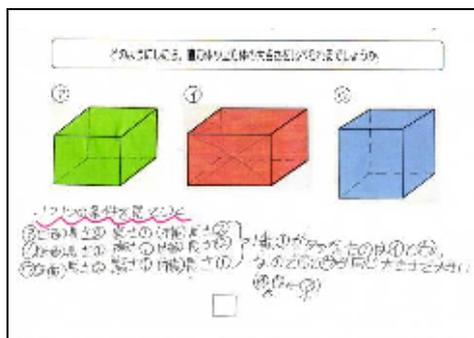
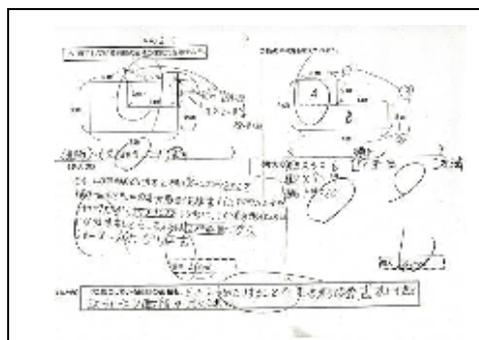
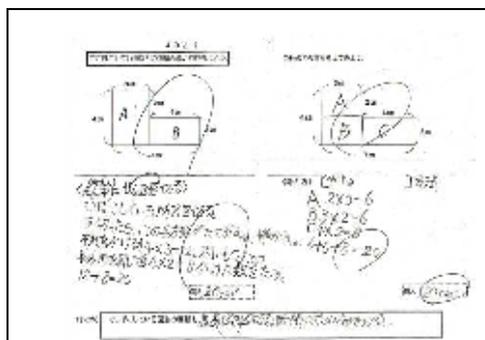


考えをペアで説明し合う《1年》



考えを小黒板に式で表す《4年》

③課題について今までの知識をもとに、応用したり考えたりする活動



3 成果等

- ☆課題解決にあたっては、高学年であっても具体物を多めに用意し、操作活動がしやすいようにしたことで、児童が具体物の操作を積極的に取り入れ、多種多様な考え方を引き出すことができた。
- ☆自力解決において、図・式・言葉を用いて考えを導くことを積み重ねてきたことで、自分の考えをわかりやすく説明する力がついてきた。
- ☆ノートに図や言葉を使って書いたり、自分の考えを隣の席の児童に説明したりする活動を通して、一人一人の表現する力を育ててくることができた。
- ☆課題解決を促すような個に応じたヒントカードや具体物の活用を図ることで、『わかる・できる』という達成感を高めることができた。
- ☆上位の児童にもステップカードを作成し、より個に合った支援をすることができた。
- ☆教具を目的に合うよう自作したことにより、児童に十分な算数的活動をさせることができた。
- ☆導入部分では、児童が題意を集中して確実に捉えられるように工夫をした。高学年では教具を視覚的かつ具体物で提示した。中学年ではコースに応じた題意の示しかたを工夫した。低学年では実演や書画カメラを使用した。